

## 日口国際セミナー

# 「企業経営から見たロシア極東市場の質」の開催について

ERINA 調査研究部研究主任  
志田仁完

2017年3月6日、ロシア極東連邦大学（ウラジオストク市）において日本・ロシア共同で国際セミナーを開催した。

本セミナーは、ERINA 所員と共同研究者らの計7名からなるメンバーがロシア極東の経済発展の潜在力を評価することを目的として、2015～2017年の3か年にかけて進めてきたプロジェクトの成果を報告する場として設けられた。プロジェクトの一環として、ロシア企業742社を対象とするアンケート調査が実施されている<sup>1</sup>。以下にセミナーの概要を記す。なお、ロシア国立高等経済学院アンドレイ・ヤコブレフ教授による報告を予定していたが、事情により急遽取りやめとなった。

はじめに、新井洋史 ERINA 調査研究部長・主任研究員によって、研究プロジェク

トの趣旨と企業アンケート調査の概要について説明が行われた。これに続き、日本人研究者5人によって研究報告が行われた。プロジェクトのメンバーは、ロシア北西部との比較を通して、極東に所在する企業の特徴を明らかにし、「市場の質」（Market Quality）を評価するという問題意識を共有したうえで、各自の担当分野に関してアンケート調査に基づくマイクロ計量分析を行っている。北西部の経済先進地の「市場の質」は極東のそれよりも高いのではないかという意識が一般的に存在すると思われるが、このような「俗説」の是非を様々な要因をコントロールしながら実証的に証明もしくは反駁することが、メンバーに共有された研究課題であった。

岩崎一郎 一橋大学経済研究所教授

は、ロシア極東のコルポレート・ガバナンスに関して、取締役会と監査委員会に注目し、ロシア全体およびロシア北西部との比較を行った。比較の結果、企業統治という側面において東西の差は確認されるが、その差は極めてわずかであることが示された。

堀江典生 富山大学研究推進機構極東地域研究センター教授は、労働市場の質について、雇用や労働組合といった人的資本管理の観点から報告を行った。人口減少地域の極東と発展地域の北西部というはっきりとした条件の相違にもかかわらず、ほとんどの労働問題は地域を通して同質的であり、差は極めて小さいことが明らかにされた。

杉浦史和 帝京大学准教授は、企業の財務面に注目した分析結果を報告した。

<sup>1</sup> アンケート調査の内容と結果の概要に関しては、次の資料を参照されたい。Hirofumi Arai and Ichiro Iwasaki, "Market Quality in the Russian Far East from the Viewpoint of Company Management: Preliminary Report on Microeconomic Comparative Analysis with European Regions," *ERINA Discussion Paper* No. 1602e, October 2016: <http://www.erina.or.jp/wp-content/uploads/2014/09/DP1602e.pdf>.

資金の調達規模、期間、資金の貸し手となる銀行との関係、税務当局との問題の多くの側面に関して東西に差が見られなかった。

富山栄子事業創造大学院大学教授は、販売促進やマーケティングといった企業の販売戦略に注目し、東西の市場の質の評価を行った。明らかになったことは、マーケティングの費用や専門家、また専門家の育成、販売戦略や技術において北西部の方がより大きな問題を抱えているということである。

最後に、新井洋史 ERINA 調査研究部長・主任研究員はロジスティクスに着目した分析を報告した。輸送手段の選択という点において、極東企業は鉄道を、北西部企業は道路輸送をより多く用いるというはっきりとした相違が確認された。

以上の通り、東西の差の有無は調査対象となる分野によって異なっていた。しか

し、それは必ずしも極東企業の「市場の質」の低さを示す結果とはなっておらず、差が存在した場合でも、その差自体が極めて小さいことが示された。企業の経営者層へのアンケートの結果は、企業経営という側面において極東企業が北西部企業に必ずしも劣っているわけではないことを

示すものとなった。

このような調査結果と研究プロジェクト自体に関する極東の人々の関心は非常に高かった。大学の研究者だけではなく、極東の発展に関係する官庁、また、日系企業、地元の企業の関係者ら約60人が参加し、予想以上に大きなセミナーとなった。

